

連載

ドキュメンタリーの視覚3

鈴木一誌

気鋭の映画評論家としても知られるデザイナーが、古典的作品から「記録映画をどう観るか」を探る連載。

特集

変転の中のバナナと日本人
歴史認識・フードシステム・対抗運動

5

その昔、「バナナと日本人」鶴見良彦という新書本がバナナを見る目を一新させた。以来、四半世紀の時間が過ぎ、バナナはバナナのままでありつつながら、そこに関わる多様な人間たちのあり方が大きく変貌を遂げている。では、今世紀の初頭にあつて、私たちはどんなふうになバナナを見、どんな付き合い方をしたらいいのか、その実相に迫ってみよう。



特集1

スルーからみた世界システム
中心による周辺の搾取という図式の盲点

山下範久

6

多国籍アグリビジネスの新たな経営戦略
グリーン・キャピタルズを掲げるドーラ社

関根佳恵

18

島嶼東南アジアは、ウォーラー・ステインの理論によつても歴史的な位置づけの把握は困難であった。スルー海を中心に問題設定から再定義することで、世界システム論を刷新する。日本のバナナ市場において最大シェアを誇るドーラ社。その事業展開と戦略を究明し、労働者の権利や環境の保護すら利潤拡大の機会として取り込む多国籍企業の実相に迫る。

特集3

バナナのおいしさと価格
法外に安い商品を喜ぶだけではないのか

伏木亨

32

ミランダオのバナナ生産の最新事情
ATJが取り組む少数民族のバナナ

幕田恵美子

40

国際果実資本に対抗するバナナNGO
レイクセブの balan gong project

UAVFI

50

タイと日本の産直バナナ報告
ホームトン・バナナを手塩にかけた二五年

小山潤

62

エントロピー農学のすすめ
劣化した農業と農地の再生を目指して

槌田敦

74

コラム

フェアトレード研究会の設立

辻村英之

84

オルタナティブトレードとフェアトレード

池上甲一

85

「協同」の現場から

- 1 コミュニティトレード al
- 2 フェアトレード・ラベル・ジャパン

60 38



輸入量こそ少ないが、タイ産無農薬バナナの国際産直事業が一五年にわたって続けられている。生協の支援のもとで、現地の農民会とともに産地開発からはじめた運動の歴史。外部不経済により農業が衰え、そのために放置された農地も、栄養素が適切に循環せず荒れてゆく。物理学的見地から両者の修復を同時に探る「エントロピー農学」とは何か。

いびつな産業構造によるバナナの不当な安さに味いはない。しかし安全な作物に正当な対価を支払ったという情報からは、「価値」という味覚を味わうことができるのである。

ネグロス島からはじまった無農薬バナナの民衆交易事業は、ミランダオ島に新たな産地を見出した。困難を乗り越え、地元少数民族との出会いから生まれた新プロジェクトの報告。

ミランダオ高地で環境破壊や紛争の危機に晒されながらバナナ生産に取り組む少数民族を支援するNGOによる、持続可能な農業と地域の復興を目指した活動のレポート。

ナチズムの巨大な経験から学ぶ

帝国収穫感謝祭の丘を訪ねて
ハーメルン紀行——ナチスが組織した熱狂と陶醉

藤原辰史

88

「新しい中世」と多元・連合・協同社会
近代批判の完遂と部分社会の創出へ

大窪 志

105

ケアの社会学

上野千鶴子

118

第八章 生協福祉の展開(2)

『世界共和国へ』に関するノート(5)
専制国家

柄谷行人

144

デザイン覚書9 「新訳の旧態」

鈴木一誌

155

『E』9号に書いた／語った人たち

156

編集後記・次号予告

157

ナチス政権下に開催された収穫感謝祭とは何だったのか。祝祭の舞台として「造られた」農村を訪ね、農業ロマン主義と先端科学技術の歪んだ結合の姿を記録と記憶から掘り起こす。

「近代」が終焉し「新しい中世」の到来を示唆する世界の中で、人はいかにして個を確立しようのか。ナチスの経験によって封殺された近代批判を再考し、人間の新しいありかたを探る。

福祉活動に携わる生協傘下のワーカーズ・コレクティブは、誰が、どのような動機と労働条件のもとで担っているのか。実証的な経営分析を展開し、佳境に入る好評連載。

専制国家は征服によってだけではなく、征服の事実を隠蔽することによってのみ可能となる。そして農業共同体や神政は、むしろその結果である。歴史認識の刷新を計る注目の国家論。